



## 2025年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年1月14日

上場会社名 株式会社ハピネス・アンド・ディ 上場取引所 東  
コード番号 3174 URL <http://www.happiness-d.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田 篤史  
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 前原 聡 TEL 03-3562-7521  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：無  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年8月期第1四半期の連結業績（2024年9月1日～2024年11月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年8月期第1四半期	1,957	△19.8	△142	—	△150	—	△153	—
2024年8月期第1四半期	2,442	—	△184	—	△191	—	△209	—

(注) 包括利益 2025年8月期第1四半期 △154百万円 ( —%) 2024年8月期第1四半期 △210百万円 ( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年8月期第1四半期	△60.50	—
2024年8月期第1四半期	△82.31	—

(注) 1. 2023年8月期第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2024年8月期第1四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年8月期第1四半期	6,835	849	11.7
2024年8月期	7,052	1,015	13.7

(参考) 自己資本 2025年8月期第1四半期 805百万円 2024年8月期 970百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年8月期	—	7.50	—	7.50	15.00
2025年8月期	—	—	—	—	—
2025年8月期（予想）	—	7.50	—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2025年8月期の連結業績予想（2024年9月1日～2025年8月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	5,491	△8.0	173	292.0	154	399.2	101	—	39.90
通期	10,321	△4.2	178	—	138	—	67	—	26.60

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無  
新規 社 (社名)、除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2025年8月期1Q	2,591,600株	2024年8月期	2,581,600株
2025年8月期1Q	38,847株	2024年8月期	39,496株
2025年8月期1Q	2,541,352株	2024年8月期1Q	2,545,801株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(会計方針の変更に関する注記) .....	9
(四半期連結損益計算書に関する注記) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、ロシア・ウクライナ情勢の長期化・中東の紛争激化に加え、米国大統領選挙の結果も受けて、世界情勢は一層不透明感が増しております。国内においては、景気は緩やかに持ち直しの動きにあり、インバウンドを中心に観光需要の盛り上がりが見られるものの、原材料や円安水準の高止まりによる諸物価の高騰も続いており、消費者マインドの持ち直しは依然不透明な厳しい経営環境が続いております。

このような状況下、当社グループはグループ戦略に主眼を置いた中期経営計画（2023年10月3日公表、2024年10月29日見直し）の取組みとして、ハピネス・アンド・ディの構造改革、No.（ナンバードット）の宝飾新規事業立ち上げ、AbHeriの展開拡大等を進めてまいりました。

ハピネス・アンド・ディの構造改革といたしましては、前期より進めてまいりました宝飾品・プライベートブランド（PB）の拡充、好調の地金商品・ユニセックス商品の強化、宝飾強化店舗を前期末の17店舗から22店舗へ拡大し、CRMによる顧客管理とAIロールプレイングによる接客力の強化等の取組みを進めました。

No.の取組みといたしましては、2024年11月にブランドローンチとしてポップアップ店・ECサイトの開設いたしました。AbHeriにつきましては、関西の主力店舗となる大阪店のオープン（2025年3月予定）へ向けての準備を進めております。

販売活動の施策といたしましては、宝飾催事を重点課題として強化し、11月のブラックフライデーセール等の販促企画を実施いたしました。商品政策といたしましては、引き続き地金商品・PBジュエリーの強化を進め、純金お守り等の新商品の投入も実施いたしました。また、手ごろな価格のPBバッグの販売が好調となりました。なお、AbHeriにおいて業績は堅調に推移いたしました。販売費及び一般管理費については、前期17店舗の閉店効果及び人件費を中心とした抑制に努めた結果、前年同期を下回りました。

また、店舗の出退店につきましては、新規出店及び統廃合はございません。これによりAbHeri直営店3店舗を加えますと、2024年11月末現在の当社グループ店舗数は前期末同様の74店舗となっております。

なお、前連結会計年度におきまして、不採算店17店舗の閉店を実施したことで、第1四半期における店舗数比較は前年第1四半期83店舗に対し、当第1四半期は74店舗となっております。この店舗数減少により売上規模は大きく減少となっておりますが、第1四半期におけるハピネス単体既存店ベースでの売上高は前年同期比94.5%、粗利益は同104.2%となっております。構造改革における取組みの中で、高額ブランド商品から粗利率の高い宝飾・地金商品へ商品展開のシフトを進めていることから、既存店売上高は減少となりましたが、同粗利益が前年同期比増額へ改善いたしました。

上記の取組みにより、第1四半期における営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失は、いずれも改善しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,957,707千円（前年同期比19.8%減）、営業損失142,621千円（前年同期は営業損失184,916千円）、経常損失150,671千円（前年同期は経常損失191,979千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失153,757千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失209,550千円）となりました。

なお、当社グループの業績は、クリスマス時期を中心とした年末年始商戦が最繁忙期であり、四半期決算としては第2四半期（12月～2月）の占める比重が高くなっております。

（参考）当社グループにおける商品区分別売上高は以下のとおりです。

- ・宝飾品は、地金商品・PBジュエリー等が引き続き好調であったことで、売上高706,333千円（前年同期比9.8%増）、売上総利益407,116千円（前年同期比14.8%増）となりました。
- ・時計は、価格上昇による海外ブランド時計の落ち込みと時計市場の縮小に伴って、前期より商品展開を絞っており、売上高254,022千円（同43.9%減）、売上総利益80,640千円（同38.3%減）となりました。
- ・バッグ・小物は、MD見直しにより手ごろな価格帯の商品が好調となりましたが、海外ブランドの価格上昇の影響や秋冬アパレル商品が気温の影響で出遅れたこともあり、売上高997,351千円（同25.9%減）、売上総利益317,261千円（同25.3%減）となりました。

## &lt;商品区分別売上高&gt;

	前年同四半期連結累計期間 (グループ店舗数83店舗)	当第1四半期連結累計期間 (グループ店舗数74店舗)
宝飾品(千円)	642,783	706,333
時計(千円)	452,970	254,022
バッグ・小物(千円)	1,346,895	997,351
合計(千円)	2,442,650	1,957,707

## &lt;商品区分別売上総利益&gt;

	前年同四半期連結累計期間 (グループ店舗数83店舗)	当第1四半期連結累計期間 (グループ店舗数74店舗)
宝飾品(千円)	354,632	407,116
時計(千円)	130,724	80,640
バッグ・小物(千円)	425,034	317,261
合計(千円)	910,390	805,018

## (2) 財政状態に関する説明

## (流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、5,507,367千円となり、前連結会計年度末と比較して211,440千円減少しております。これは主として、年末年始商戦に向けた商品確保により商品及び製品が89,742千円増加したものの、現金及び預金が319,205千円減少したことが要因であります。

## (固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、1,328,609千円となり、前連結会計年度末と比較して4,668千円減少しております。これは主として、有形固定資産のその他(純額)が29,748千円増加したものの、建物及び構築物(純額)が20,276千円減少、無形固定資産のその他が4,219千円減少、敷金及び保証金が8,037千円減少したことが要因であります。

## (流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、3,567,602千円となり、前連結会計年度末と比較して293,399千円増加しております。これは主として、未払法人税等が34,830千円減少、その他が68,864千円減少したものの、支払手形及び買掛金が68,677千円増加、短期借入金が333,320千円増加したことが要因であります。

## (固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、2,418,858千円となり、前連結会計年度末と比較して343,374千円減少しております。これは主として、長期借入金が344,461千円減少したことが要因であります。

## (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は、849,515千円となり、前連結会計年度末と比較して166,134千円減少しております。これは主として、利益剰余金が172,823千円減少したことが要因であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、2024年10月15日の「2024年8月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました業績予想に変更はありません。なお、当該業績予想につきましては、本日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

## (4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、2022年8月期以降の急激な円安進行・物価高騰によりインポートブランド品の販売が落ち込み、不採算店舗の閉店も進めた結果、2023年8月期以降、継続して、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しております。当第1四半期連結累計期間においても営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在すると認識しております。

当社グループはこのような状況に対し、(1) 経営成績に関する説明に記載いたしましたように、中期経営計画に基づくハピネス・アンド・ディの構造改革、No. の宝飾新規事業立ち上げ、A b H e r i の展開拡大等の早期の黒字化へ向けての取組みを推進しております。

また、資金面においては、当第1四半期連結会計期間末において、現金及び預金662百万円（前連結会計年度末は現金及び預金981百万円）となっており、現在財務制限条項のついた金融機関との借入契約はありません。

今後の安定的な事業継続に必要な資金繰りを維持するため、当社は取引金融機関に対して借入金の元本返済に係る条件変更の申し入れを行い、各金融機関の同意をいただくとともに、メインバンクである株式会社千葉銀行より短期の新規借入を行っております。メインバンクを中心に金融機関と緊密な関係を維持しており、今後も継続的な支援が得られるものと考えております。

なお、当社は、2023年10月に第三者割当による第11回新株予約権及び第12回新株予約権の発行を行っております。権利行使期間は2026年10月までとなっており、今後の行使による調達額はM&Aをはじめとする事業領域の拡大等に充当し、自己資本の充実にも資するものと考えております。

以上により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在するものの、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	981,220	662,015
受取手形、売掛金及び契約資産	736,275	756,419
商品及び製品	3,693,755	3,783,497
仕掛品	14,003	9,778
原材料及び貯蔵品	188,981	184,245
その他	104,572	111,412
流動資産合計	5,718,808	5,507,367
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	405,614	385,337
その他（純額）	128,245	157,993
有形固定資産合計	533,859	543,330
無形固定資産		
のれん	38,941	35,945
その他	58,395	54,176
無形固定資産合計	97,336	90,121
投資その他の資産		
敷金及び保証金	580,107	572,070
その他	121,974	123,087
投資その他の資産合計	702,082	695,157
固定資産合計	1,333,278	1,328,609
資産合計	7,052,086	6,835,977

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	460,422	529,100
電子記録債務	341,759	361,704
短期借入金	—	333,320
1年内返済予定の長期借入金	1,743,180	1,731,300
未払法人税等	49,200	14,369
賞与引当金	97,004	84,036
その他	582,636	513,771
流動負債合計	3,274,203	3,567,602
固定負債		
長期借入金	2,221,747	1,877,286
資産除去債務	368,760	369,043
その他	171,726	172,529
固定負債合計	2,762,233	2,418,858
負債合計	6,036,436	5,986,461
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	348,699	352,284
資本剰余金	336,825	340,294
利益剰余金	307,234	134,410
自己株式	△23,445	△22,297
株主資本合計	969,313	804,692
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,508	1,074
その他の包括利益累計額合計	1,508	1,074
新株予約権	44,829	43,748
純資産合計	1,015,650	849,515
負債純資産合計	7,052,086	6,835,977

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)
売上高	※ 2,442,650	※ 1,957,707
売上原価	1,532,259	1,152,689
売上総利益	910,390	805,018
販売費及び一般管理費	1,095,307	947,639
営業損失(△)	△184,916	△142,621
営業外収益		
受取利息	0	11
受取配当金	1,018	333
受取保険金	474	220
その他	685	714
営業外収益合計	2,178	1,279
営業外費用		
支払利息	8,612	9,085
その他	629	243
営業外費用合計	9,241	9,329
経常損失(△)	△191,979	△150,671
特別損失		
固定資産廃棄損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純損失(△)	△191,979	△150,672
法人税、住民税及び事業税	16,452	5,489
法人税等調整額	1,117	△2,404
法人税等合計	17,570	3,085
四半期純損失(△)	△209,550	△153,757
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△209,550	△153,757

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)
四半期純損失(△)	△209,550	△153,757
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,141	△433
その他の包括利益合計	△1,141	△433
四半期包括利益	△210,691	△154,190
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△210,691	△154,190

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日 企業会計基準委員会)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結損益計算書に関する注記)

## ※ 売上高の季節的変動

当社グループの業績は、クリスマス時期を中心とした年末年始商戦が最繁忙期であり、四半期決算としては第2四半期(12月～2月)の占める比重が高くなっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費も含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2023年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年9月1日 至 2024年11月30日)
減価償却費	39,721千円	32,962千円
のれんの償却額	2,995千円	2,995千円

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当社グループは宝飾品、時計及びバッグ・小物等の製造・販売業という単一セグメントであるため記載を省略しております。